

全国中高生水フォーラム - 未来につなぐ 水のリレー -

2013

A

開催報告

—
かたちは色々、
想いはひとつ
—



全国中高生水フォーラム

- 未来につなぐ水のリレー - 2013

開催趣旨

index

00	開催趣旨
03	開催目的
03	開催概要
03	特徴と効果
04	大会プログラム
05	運営スタッフ講習会・会場まで
06	1日目/7月31日
07	2日目/8月1日
09	3日目/8月2日
10	第1分科会
12	第2分科会
14	第3分科会
16	第4分科会
17	閉会式
19	参加者一覧/実行委員・運営スタッフ一覧
19	全国中高生水フォーラム - 未来につなぐ水の リレー - 2013 に参加して

世界中における深刻な水不足、水汚染、洪水による水災害、あるいは地下水涸渇、湖沼の面積激減などの多面的水危機が問題となっている。

また、2004年スマトラ沖地震、2010年2月のチリ沖地震、そして2011年3月11日に発生した「東日本大震災」においては津波による多くの犠牲者と被災者を出した大災害であったことは言うまでもなく、世界中においてますます水による深刻な問題が発生している。さらに、人口増加と途上国の生活レベル向上による水不足など地球規模の課題が生じている。

このような水問題について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として1997年より3年に一度「世界水フォーラム」が開催されている。

2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」の主要な分科会のひとつとして「第1回世界子ども水フォーラム」が開催され日本の子どもたちも参加した。このとき、日本の子どもたちは、世界の子どもたちとの水に対する関わり方の違いを知り、衝撃を受けたが、一方、子どもたち自ら考え、行動を起こしている自分たちについて誇れることも知った。

この「世界子ども水フォーラム」の経験や情報を引き継ぎ、水に関する諸問題の解決方策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、日本国内で2003年より「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」を毎年開催し、2012年は「全国中高生水フォーラム - 未来につなぐ 水のリレー -」と名称変更し、千葉で開催した。

「世界子ども水フォーラム」は「世界水フォーラム」に合わせて、2006年に第2回大会がメキシコで、2009年に第3回大会がイスタンブール（トルコ）で開催され、2012年にマルセイユ（フランス）では子ども水フォーラムが開催されなかったが、公式セッション「Children Solution's」として日本の子どもたちが発表した。

今回が第11回目となる「全国中高生水フォーラム - 未来につなぐ水のリレー - 2013」においては、自分たちが行っている水に関する活動等に加え、水の恐さ、水の大切さや人と水の関わり等についてお互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、将来に向けての子どもたち自身の活動に更なる発展を期待するとともに、子どもたちの水に関するネットワークを構築することを目的とする。

開催目的

本大会は以下の4つの目的のもと開催されました。

- 1：世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
- 2：水に関する活動を広げていくため、自分たち子どもができることを議論する。
- 3：子どもたちの水に関するネットワークを構築する。（同じ仲間がいることを知る。）
- 4：次世代を担う子どもたち、若者たちを育成する。

開催概要

- 1 開催日程：平成25年7月31日（水）～8月2日（金） 2泊3日
- 2 開催場所：八王子セミナーハウス
- 3 主催：全国中高生水フォーラム実行委員会
- 4 共催：（公財）河川財団 子ども水辺サポートセンター
- 5 後援：文部科学省、国土交通省、環境省、全日本中学校長会、NPO法人 日本水フォーラム
NPO法人 自然体験活動推進協議会、NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会
（公社）ガールスカウト日本連盟、（公社）ボーイスカウト日本連盟

特徴と効果

- ・水に関心を持っている、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- ・水問題に関する作文審査による選抜
- ・OB・OG等からなる大学生・大学院生がファシリテーター等の運営スタッフとなり、大会運営の中心的役割を担う
- ・自分達自身の活動発表や、グループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- ・自分達の活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築



大会プログラム

1日目 (7/31・水)

11:00 移動・バス(羽田空港)

★分科会担当スタッフ等顔合わせ

13:30 受付開始

★写真撮影

14:00 開会式

★開会宣言

★開会挨拶

★実行委員紹介

★開催趣旨説明

14:30 オリエンテーション

★スケジュール説明

★本大会の注意事項

★全スタッフ紹介

15:00 アイスブレイク

★名刺交換会

★アクティビティ

★休憩・入室

16:30 分科会 1

★分科会でアイスブレイク

★分科会内で自己紹介

18:00 夕食

★各グループで食事

19:00 分科会 2

★各グループでのワークショップ

(以下WS)

★入浴

22:30 就寝

2日目 (8/1・木)

6:30 起床

★ゴム視察準備

7:45 朝食

9:00 バス移動

10:00 宮ヶ瀬ダム視察

★ダムの内部視察

★水とエネルギー館内見学

関東地方整備局

相模川水系広域ダム管理事務所

11:30 昼食

12:45 バス移動

★ダム視察の振り返り

14:00 分科会 3

★各グループでのWS

15:00 交流会

★参加者全員でWS

16:00 分科会 4

★各グループでのWS

18:00 夕食

★各グループで食事

19:00 分科会 5

★各グループ発表準備

★各グループ成果取りまとめ

★入浴

22:30 就寝

3日目 (8/2・金)

6:30 起床

★後片付け等退所準備

8:00 朝食

8:40 発表会場へ移動

9:30 全体成果発表会

★各グループの発表

★意見交換

12:00 昼食

13:00 閉会式

★講評

★閉会宣言

★閉会挨拶

★記念撮影

14:00 出発

★バスにて移動(羽田空港へ)

16:30 解散(羽田空港)



運営スタッフ講習会

7/13・14

大会の運営を担う、運営スタッフの講習会を事前に開催しました。今年では初参加の大学生スタッフが多いため、一日目は玉川大学の根上明先生よりファシリテーション能力向上についての研修をじっくりと行いました。アイスブレイクについても多数のプログラムをスタッフと事務局メンバーと一緒に体験し、様々な意見を交換しました。



アイスブレイクを実際に体験



交流会のプログラムを考えます

プチ講義トピックス

- ワークショップとファシリテーション
- 体験学習について
- ファシリテーターについて
- 体験学習と知識創造(SECI)モデル
- 体験学習と知識創造と協同学習
- 協同学習の基本概念とスキル
- グループの成長を促す
- ファシリテーションのヒント

講義内容



講習会講師
根上 明 氏



運営スタッフ 集合写真



スタッフが空港で名札を渡します



空港に集合！これからバスで向います



集合～
会場まで

いよいよ全国中高生水フォーラムの初日を迎え、全国から水に関心のある中高生がぞくぞくと集合しました。

25人の参加者のうち大半が、初参加ということもあり、羽田空港では緊張気味でしたが、バスで会場に移動している間に運営スタッフの人たちが分科会のメンバーを和ませてくれ会場に到着した時はすっかり打ち解けていました。

開会式



開会宣言 浅川麗香さん



竹下珠路 実行委員の開会挨拶

地元東京から参加した浅川麗香さん（高2）より『今回私たちは、それぞれ「水」に対する想いを胸にここに集まりました。「水」は、私たち人類はもとより、地球上のあらゆる生きものに必要不可欠な存在です。今回参加した仲間を中心として世界に発信できるようなネットワークを作っていきたいと思っています。』と力強い開会宣言をいただきました。

続いて竹下珠路実行委員より『一人も欠けることなく参加できたことを喜んでおります。「水」をテーマにして、自分たちの活動の水・世界の水につながっています。それを心にとめておいてください。自分から仲間、自分から社会に自分から世界に発信していきましょう。今日がその大きな一歩になりますように！』と開会挨拶をしていただき、会場は暖かい雰囲気になりました。



細谷 実行委員



吉富 実行委員



三輪 実行委員

アイスブレイク

大学生スタッフが中心となり実行委員を含め全員でアイスブレイクを行いました。

分科会以外の参加者との交流を深める機会にもなり、大いに盛り上がりました。

名刺交換会



全員で輪になってひとつに



2

日目

8/1 (木)

宮ヶ瀬ダム 視察



宮ヶ瀬ダム (神奈川県)

宮ヶ瀬ダム内部



二日目の午前中は、東京、横浜から 50km 圏内の相模川水系中津川に位置する首都圏最大級の多目的ダムである宮ヶ瀬ダムを見学し、相模川水系広域ダム管理事務所の方からダムの概要を説明していただきました。

最初は事務所の方からの質問に対してもあまり発言がありませんでしたが、だんだん慣れてきたのか意欲的に質問をしたり、問いかけに対しても積極的に答えていました。



第1分科会



第2分科会

交流会

チームの交流を深めるため、出来るだけ高く自立した新聞紙でタワーを作り、高さを競うゲームを分科会対抗で行いました。参加者同士で知恵を出し合い、試行錯誤しながら進めていました。有意義な時を共有することでますます交流を深めていました。



第3分科会



第4分科会

分科会

最終日の全体発表会に向けて、寸劇等のプレゼンテーション準備や協働作業がますます熱気を帯びてきました。限られた時間を精一杯活用しながら、討議と作業に打ち込んでいました。



第1分科会

水による災害



第2分科会

安全な川での体験活動



第3分科会

水環境の保全・復元・再生



第4分科会

生活や産業に必要な水



3

日目

8/2 (金)

全体発表会



第2分科会



第1分科会



第3分科会



第4分科会

いよいよ「全体発表会」です。全員参加型のクイズ形式のものや、説明の途中で劇を入れるなどバラエティーに富んだ発表でした。実行委員の方々から自分自身を次のステップへとつなげられるようなコメントをいただきました。

各分科会ごとで見えていくと、初日の堅い雰囲気からは想像が来ないほど、堂々と発表していて、それぞれがチームワークを発揮し、様々な視点からのアイデア溢れる発表が行われました。

事務局スタッフとして初めて参加しました。中高生自ら勉強してきたものを基にして、前のめりになってグループで一つのものを創り上げる姿が目に焼き付いています。また、アイスブレイクなどを通してみんなの輪が広がった貴重な3日間でした。



事務局スタッフ
五十嵐 裕之

事務局スタッフとして大会中の写真を撮らせてもらいました。初めての参加で緊張してしまいましたが、カメラを向けるとみんなが笑顔で応えてくれるので、楽しくなり、ついつい撮りすぎてしまいました。みんなのキラキラと輝く表情は忘れられません！



事務局スタッフ
高島 隆浩

全国から志の高い仲間が集まり、刺激し合える場所であり、毎年新たな居場所になっていくのが全国中高生水フォーラムです。



事務局スタッフ
竹内 絵夢

事務局スタッフとして、その環境づくりをお手伝いできて、とても誇らしいです。

水による災害

第
1
分科会



【発表の概要】

まず自分たちのチームの目標をポディサークルで掲示し、発表のテーマの説明をしました。

そしてKJ法による、問題点・解決策を5つの項目に分類し（ポストイットのまま掲示）、まとめの紙（ポストイットの内容をまとめたもの）の説明をしました。

【北野実行委員長コメント】

- 発表する際には説明をしないものについては出さない方がいいと思いましたが、よく考えてまとめてあったと思います。
- 訓練はいいと思いますが、もう少しその内容（ハザードマップ利用など）を説明すればなおよかったと思います。



北野実行委員長

【三輪実行委員のコメント】

- 継続するための目標について等、大人でも大変なことをよく考えていたと思います。
- 説明を5つに絞ることで、大きなポイントを押さえていたと思います。ただし、ゴミとして捨てられない物以外でも水が汚くなる。その点についても触れてほしかったです。



三輪実行委員

今年ファシリテーターで、とても緊張していましたが、いい参加者たちに巡り合えたお陰で乗り切れました。また参加者がどんどん仲良くなっていく姿に感動しました。中学生の子を高校生の子がきちんと面倒をみてくれたので、とても助かりました。ファシリテーターや記録係はあくまでサポートする裏方であり時には一歩引いて見守ることが大切だなとも感じました。学生最後の夏に本当に良い経験が出来たと思います。皆様、本当にありがとうございました。



ファシリテーター
中林 晴香



記録係
小野 凌

参加者の三日間での成長ぶりに驚きました。空港からバスに乗るまでは氷のようなメンバーの雰囲気ファシリテーターと協力して和らげていくことで参加者の緊張がなくなっていき、最終日の三日間の振り返りの時、一人一人が自らの取り組みに納得できた雰囲気を感じることができました。水フォーラムの水を共通点としてつながっていくというテーマを1番意識して、参加した中高生が何かを感じてくれればいいなと思って参加しました。みんなからの手紙でそのことを感じられたので、願望ではなく断定で終わることが出来ました。

水害における継続の大切さ

第1分科会

Q and A

★ 整備

- 堤防・ダム建設
- Q お金がかかる
- A 国や地域に援助を求めろ
- A 募金
- Q 建設による環境の変化
- A 既存の設備の再利用

★ 備後性面

- ゴミ拾い
- Q ゴミを捨てる人がいる
- A ゴミ拾いを定期的に行車にする
- A 空になった容器を返すとお金が戻ってくるようにする



★ 協力

- Q 人が合わないが少ない
- A 日々のあいさつを大切にする!
- Q 「消防団(水防団)」がない
- A 消防団の義務化

★ 訓練

- Q 水害に対する訓練性がない
- A 学校で地震・火災と同じくらい訓練する

★ ハザードマップ

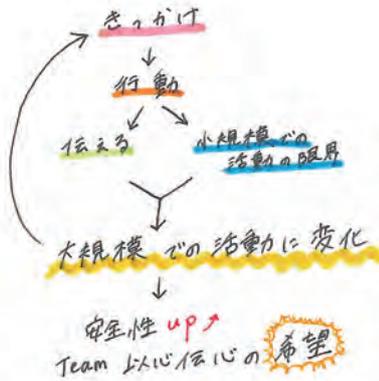
- Q ハザードマップに無関心
- A インターネットや学生帳に掲載し見やすくする
- Q 作る機会がない
- A 子供が社会科などの授業で作成し地域に配布する

まとめ

★ 継続のためには?

楽しくないと続かない!

- 水フォーラムのよう参加型、主体的な講習会だと記憶に残るかもしれない
- とにかく楽しむ!
- おんねの気持ちをお大切にする



Team 以上心伝心

ファシリテーター

中林 晴香 (かじかじ)

上野 桃子 (もも)

山田 野乃花 (のの)

記録係
小野 凌 (おのちゃん)

福岡 凌甫 (りゅうぽん)

中山 賢汰 (けんた)

小屋松 祐弥 (りゅう)

高田 美亜 (みあ)



member



福岡 凌甫
北海道 高2



山田 野乃花
青森県 高2



中山 賢汰
大阪府 高3



小屋松 祐弥
福岡県 高2



高田 美亜
福岡県 中3



上野 桃子
福岡県 高3

安全な川での体験活動

分科会
成果・発表



【発表の概要】

私たちの安全、生き物の安全の両方の視点から考えた結果を、それぞれクイズをおりませながら発表しました。安全に活動し、安全な川を作るにはどうしたらよいかを考え発表しました。

第
2
分科会



吉富実行委員

【吉富実行委員コメント】

- 発表の役割分担がよくできていたと思います。
- 外来種もいろんな立場でのとらえ方があります。解りやすい説明でよかったと思います。
- 一方方向ではなく、活動を通して伝えられるようにすればもっとよかったと思います。



三輪実行委員

【三輪実行委員のコメント】

- 発表準備を見ているときは内容がよくわからなかったが、日々の活動の前提としてテーマをとらえてありよくわかった、かなり苦労されたのではと思いました。



ファシリテーター
仲野 美穂



記録係
田村 智貴

目標を決めたことで、話すことが苦手だった参加者も少なからず努力できていて、表情がだんだん生き生きしていきました。男女ともうちとけて休み時間もとても楽しそうにしていたことが嬉しかったです。ファシリテーターの私も、毎回素晴らしい経験をさせていただき感謝しています。本当にありがとうございました。

比較的小となしい参加者がメンバーで、議論できるのか最初は少し不安でしたが、話し始めるとどんどん意見がでてきて止まらないほどでした。時間の経過とともに、参加者同士の距離の近づき具合が見れて良かったです。

みんなが最後まで自分たちの力でまとめ、発表をやりきってくれ、メンバーのみんながやり切れたと言ってくれたことが嬉しかったです。

第2分科会～安全な川での体験活動～

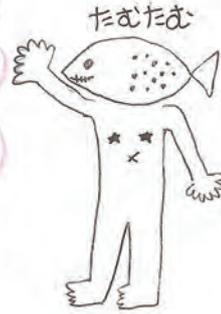
メンバー

ファシリテーター

- ゆみほちゃん (仲野美穂)
- まの (荻野 歩)
- ひかる (有吉 ひかる)
- まこと (行廣 真)

記録係

- たむたむ (田村 智貴)
- すーちゃん (毛利 鈴乃)
- こうた (武野 耕大)
- たつん (立神 直輝)



安全な川

- きれいな川
- けがしない川

第2分科会みんなの今までの活動

- ① ボランティア
- ② 調査
- ③ 飼育
- ④ 人の安全を守る
- ⑤ 発信

実際に行動する



その後の状況を調査



意見交換

(環境についての考えを深める)



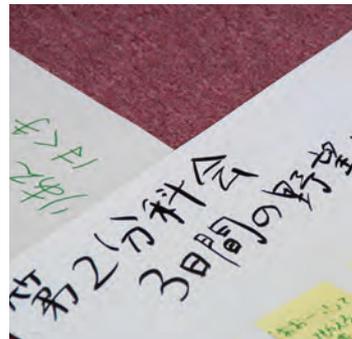
次の活動につなげる

安全に活動するために

準備をしっかりしておく
事前にどのようなとらえ方を知っておく

まとめ

これらの活動は
★環境を守ること
★川を好きになってもらうこと
に、つながる!!



member



毛利 鈴乃
北海道 高3



武野 耕大
宮城県 高1



荻野 歩
大阪府 高3



立神 直輝
広島県 高2



行廣 真
広島県 中2



有吉 ひかる
福岡県 中2

水環境の保全・復元・再生



第
3
分科会

【発表の概要】

質問形式(クイズ)で発表しました。
発表練習に時間を割き、私たちの安全、生き物の安全の両方の視点から考えた結果について、クイズをおりませながら発表しました。



北野実行委員長

【北野実行委員長コメント】

- 参加型の発表にし、クイズの答えに必ず解説をしていたのがよかったです。
- 保全・復元・再生についての意見がもう少しあればよかったです。投げっぱなしではなく、最後にまとめがあったのもよかったです。



吉富実行委員

【吉富実行委員コメント】

- 共有するには、呼びかけたり、いろんな世代の人に話を聞くのがいいと思います。
- 人に伝えることやプレゼンの技術を学ぶためのいい機会だったと思います。



ファシリテーター
久保 達哉



記録係
大関 由佳

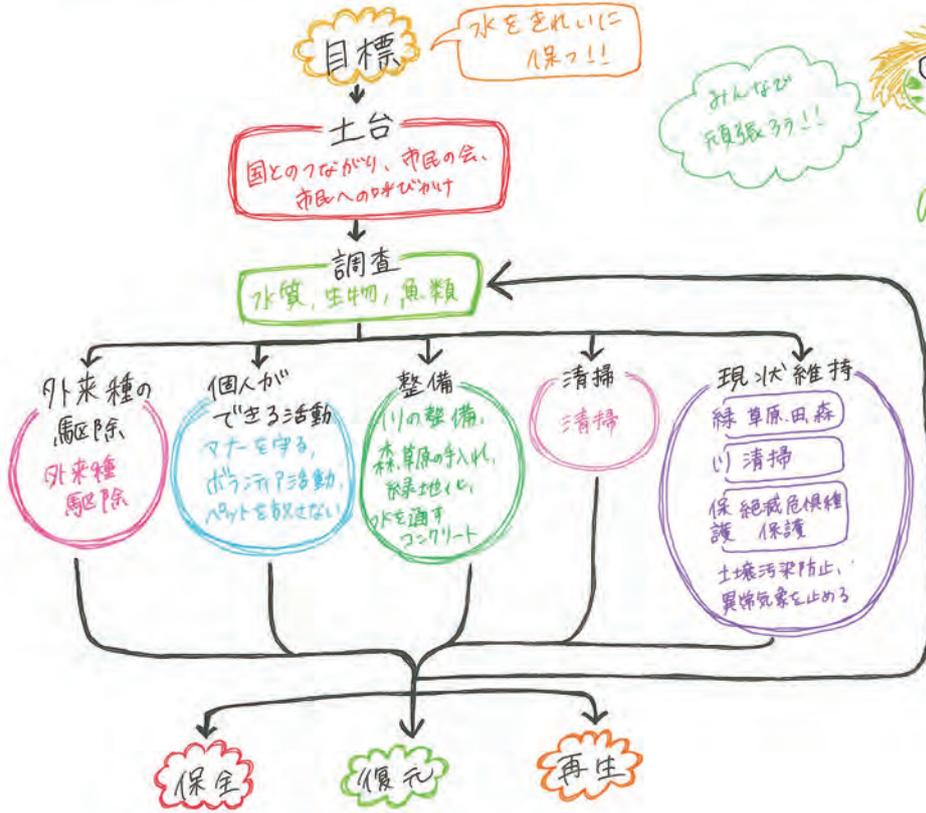
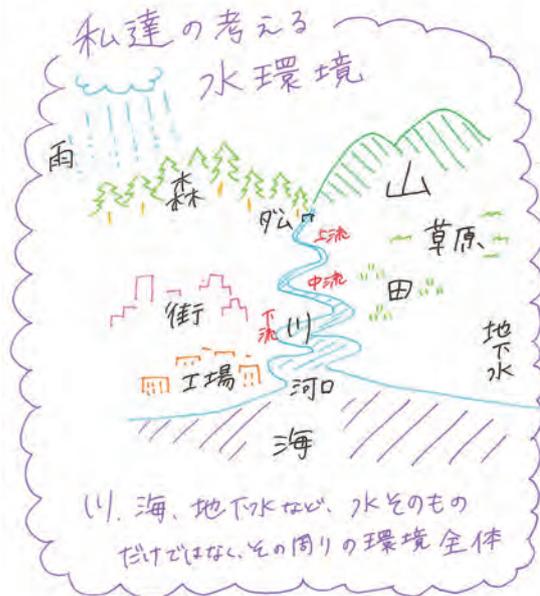
ファシリテーターとして、どのようにすれば同じ分科会のスタッフと連携がとれるのかを考えさせられました。スムーズにいかなかったところもありましたが、今後この経験がいろんな意味で活かしていけると思いました。参加者には概ね満足して三日間を過ごしてもらえたようで良かったと思います。当初の目標を果たすことができました。

1日目に、分科会のテーマに縛られずに、アイスブレイクに時間を割いたことで、2日目の夕方からの話し合いに有効に働いたと思います。2日目の夕方からは参加者だけで決めてもらう場面を増やしました。例えば、お風呂から帰ってくる目標タイムとか。でも、自由にさせるのと私たちが現場を理解していないのは別の話で、参加者の自主性に任せながらも私たちは現状を理解して、チームの安全管理や危険予測は怠らないように気をつけました。

第3分科会

7月21日-9日(3泊4日) 記録係=ゆか
 X2泊=★
 ゆか、けん、わたけん、ゆか、まいこ
 ゆかちん、まいこ

「水環境の保全・復元・再生」
 これは、水の周りのすべての環境を、そして
 生きものたちを守ること。
 このためには、まずは目標を持つこと。
 次に土台をつくること。先して調査をし、
 行動を起こす！行動には大きく分けて
 (外来種の駆除、個人ができる活動・
 整備・清掃・現状維持)がある。
 調査と行動を繰り返すと、
 最後には目標が達成できるはず！！
 「保全・復元・再生」ができるはず！！



member



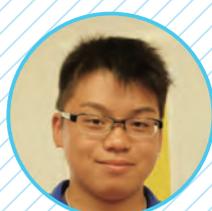
向井 裕紀子
北海道 高3



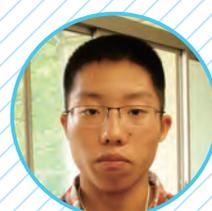
中河 由衣
大阪府 高3



奥山 舞子
岡山県 中2



和田 健太郎
広島県 高1



高田 賢人
福岡県 高2



森本 優貴美
熊本県 高1

生活や産業に必要な水



【発表の概要】

テーマについて自分たちが考えたイメージマップを作成し、その中でも特に大切に思ったことを発表しました。

また自分たちの活動紹介とこれからの向けての宣言をしました。

第
4
分科会



北野実行委員長

【北野実行委員長コメント】

- 発表する時は積極的に大きな声で、聞いている人たちに「わかって欲しい!」と伝えるようにすればいいと思います。



吉富実行委員

【吉富実行委員コメント】

- 普段の活動をこの視点で整理したのはとても重要だと思います。短い時間でよくまとめましたと思います。
- もっと自分のまわりのことや最新の技術を知って行ければ良いと思います。



ファシリテーター
久末 俊幸



記録係
逸見 翼

色々な想いを抱いた3日間でした。去年は事務局スタッフとして参加させてもらって、ファシリテーターや記録係が、参加者と、とても良い関係性を築いているのが印象的でした。今年はファシリテーターとして自分も頑張るぞ!という気合いで臨みました。

3日間色々試行錯誤して、スタッフや参加者に助けられながら、無事に最終日を迎えられるてよかったです。

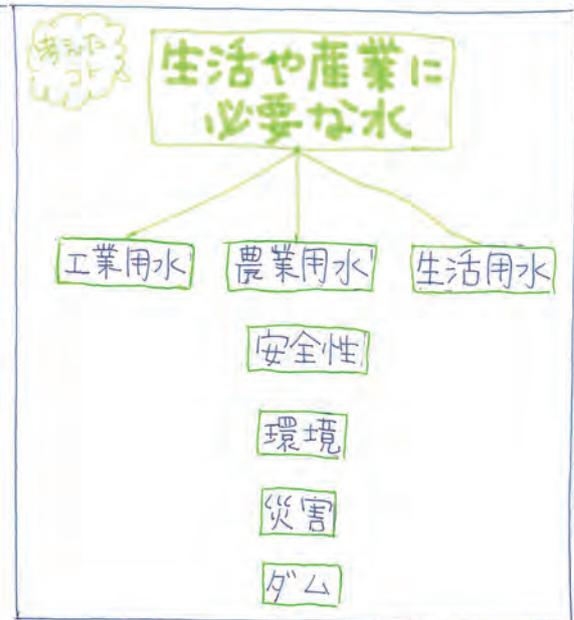
タイムマネジメントが上手く出来ていなかったことを痛感しました。そのために参加者に戸惑いを与えてしまい、どうしてあげたら全員にとって最善なのかを少し考えすぎてしまって、逆に動けなくなってしまった気がします。また発表準備の時間があまりなかったのも、ほぼぶっつけ本番!という感じになり、時間をもっと気にすればよかったと思いました。

それでも参加者が頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思え、今までの水フォーラムの中で一番よかったと言ってもらったことが何よりも嬉しかったです。

今している活動



- ・自主的な活動
- ・継続した活動
- ・水環境を良くする活動



メンバー:

橋場里穂	北澤大希
浅川麗香	山下雄也
小林夕里子	勝木悠生
柳井優希	逸見翼(副)
久末俊幸(参)	

第4分科会 生活や産業 に必要な水



メンバー:

りほ	ざわ
レイチエル	ゆうや
ゆりりん	ゆうちゃん
やいちゃん	つーちゃん
きゅー	

工業用水

《河口堰》
… 河口を塞ぎ、工業用の淡水を取り出す堰

- ◎ 精密洗浄
パソコンなど電子機器の洗浄
- ◎ 化学洗浄
コンビニート等のメンテナンス
- ◎ 食品工業水
食品の加工の際に使用

☆ 河口堰 → 汽水の生態系破壊
☆ 廃水 → 赤青潮 → 漁業への影響

農業用水

- ◎ 貯め池
- ◎ 水田(稲) } ・マイクロバブル
土に酸素を…!!
- ◎ 畑(野菜) } ・セータービポッド
砂漠地域迄!
- ◎ 仮想水
- ◎ 生物の生息地

☆ 天候は年により違う
→ 使用できる水の量の変化
… 不安定

生活用水



- ☆ 災害時の断水
- ☆ 廃水 → 棲める生物少



member



橋場 里穂
青森県 高2



浅川 麗香
東京都 高2



小林 夕里子
神奈川県 高1



柳井 優希
大阪府 高3



北澤 大希
広島県 中3

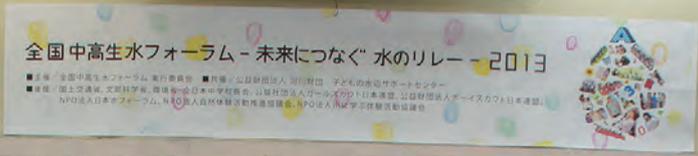


山下 雄也
山口県 高3



勝木 悠生
福岡県 中2

閉会式



今回最も遠方から参加している北海道の福岡凌甫さんと、熊本の森本優貴美さんに閉会宣言をしていただきました。

「今までは水をキレイにすることしか頭になかったけど、今回参加していろいろな視点を得たので学校や仲間に広めていきたいです。」と、「今回が4回目の参加ですが、去年とは違う分科会で、人も違うし、毎年参加していても今年には今年の学びがありました。ここで学んだことを熊本の市民にも広げて行きたいと思います。」と元気に宣言していただきました。

北野大実行委員長より『この三日間が充実していたから、時間が経つのがとても早く感じたと思います。知識や理解が深まったので次は行動に移し、その行動を継続して欲しいと思います。またそれぞれ地域に戻ったらここでの体験を核にして活動してください。』との講評をいただきました。

こうして二泊三日の「全国中高生水フォーラム」の全日程を無事に終了し、参加者は皆それぞれの思いを胸に家路につきました。



森本優貴美さん



福岡凌甫さん



北野委員長からの講評

大学生運営スタッフからの挨拶



参加者・実行委員運営スタッフ

●参加者一覧

県別	名前	性別	学年	分科会
北海道	毛利 鈴乃	女	高3	2
北海道	福岡 凌甫	男	高2	1
青森県	橋場 里穂	女	高2	4
青森県	山田 野乃花	女	高2	1
宮城県	武野 耕大	男	高1	2
東京都	浅川 麗香	女	高2	4
神奈川県	小林 夕里子	女	高1	4
福井県	向井 裕紀子	女	中3	3
大阪府	荻野 歩	女	高3	2
大阪府	中山 賢汰	男	中3	1
大阪府	柳井 優希	女	高3	4
大阪府	中河 由衣	女	高3	3
岡山県	奥山 舞子	女	中2	3
広島県	和田 健太郎	男	高1	3
広島県	立神 直輝	男	高2	2
広島県	北澤 大希	男	中3	4
広島県	行廣 真	男	中2	2
山口県	山下 雄也	男	高3	4
福岡県	小屋松 祐弥	男	高2	1
福岡県	高田 美亜	女	中3	1
福岡県	勝木 悠生	男	中2	4
福岡県	有吉 ひかる	女	中2	2
福岡県	高田 賢人	男	高2	3
福岡県	上野 桃子	女	高3	1
熊本県	森本 優貴美	女	高1	3

●実行委員・運営スタッフ一覧

役割	名前	性別	所属・役職等
実行委員長	北野 大	男	淑徳大学 教授
実行委員	竹下 珠路	女	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
実行委員	細谷 美明	男	全日本中学校長会 会長
実行委員	沖 大幹	男	東京大学 生産技術研究所 教授
実行委員	吉富 友恭	男	東京学芸大学 環境教育研究センター 准教授
実行委員	金尾 健司	男	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長
実行委員	三輪 準二	男	(公財)河川財団 子どもの水辺サポートセンター長
講習会講師	根上 明	男	玉川大学 非常勤講師
ファシリテーター	中林 晴香	女	第一分科会
ファシリテーター	仲野 美穂	女	第二分科会
ファシリテーター	久保 達哉	男	第三分科会
ファシリテーター	久末 俊幸	男	第四分科会
記録係	小野 凌	男	第一分科会
記録係	田村 智貴	男	第二分科会
記録係	大関 由佳	女	第三分科会
記録係	逸見 翼	女	第四分科会
事務局スタッフ	五十嵐 裕之	男	事務局スタッフ
事務局スタッフ	高島 隆浩	男	事務局スタッフ
事務局スタッフ	竹内 絵夢	女	事務局スタッフ
事務局	吉野 英夫	男	(公財)河川財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	菅原 一成	男	(公財)河川財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	花田 須磨子	女	(公財)河川財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	端山 桃子	女	(公財)河川財団 子どもの水辺サポートセンター

2013年7月31日現在

全国中高生水フォーラム - 未来につなぐ水のリレー - 2013 に参加して (抜粋)

様々な水についての取り組みがあり、その数だけ水に対する視点や考えがあることを知り、様々な考え方で水を考えられるようになった。

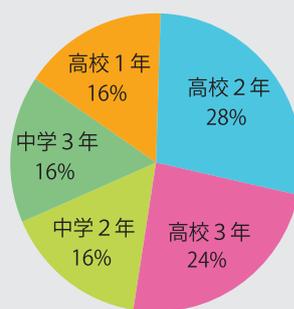
自分が今できることをみつめなおすことができ、課題をみつめることができたので良かったです。

事前学習レポートの作成を通して、以前はあまり興味を持っていなかった産業と環境・水資源といったテーマに興味を持つことができました。

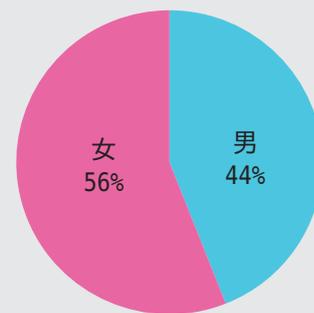
他の県で、同じくらいの年齢の人がさまざまな活動を行っているのを知れて良かった。自分では思いつかない考えや、活動を知り、自分の活動の参考になった。

水を節水するようになった。自分のしている活動についてもっと多くの知識を得ようと思えるようになった。

参加者内訳



学年別内訳



男女別



地域別人数



全国中高生水フォーラム
- 未来につなぐ水のリレー -2013
実行委員会 事務局

公益財団法人 河川財団 子どもの水辺サポートセンター内
〒103-0001 東京都中央区小伝馬町 11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル 2 階
TEL:03-5847-8307 FAX:03-5847-8314
www.mizube-support-center.org



www.facebook.com/cwwf.followup